

令和元年12月24日(火)

10月25日、朝日新聞に、ある大学生からの投書が載っていました。それは次のような文章です。

**私は人生の「正解」が欲しい(2019.10.25付 朝日新聞の投書から)**

高校までは何に対しても「正解」がありました。教科書の問題は解答ページに、取るべき行動は校則に、他の細かいことはすべて先生が答えをくれました。勉強して、良い大学へ行って、素敵なパートナーを見つけることが、私にとって正しいことだと思っていました。

だってほら、親も学校も社会も、私にそうなることを望んだでしょう。だから私はそれを信じて疑わず、そうすれば必ず幸せになれるとさえ思っていました。

しかし、大学や社会に出ると突然、正解のない問題ばかりが降りかかってきます。何が正しいか、何が幸せか、自分で見極めろと言われてます。私なりの正しさって何だろう。私にとっての幸せって何だろう。今までそんなこと、教えてはくれませんでしたね。

今まで通りの「正しい」道を進めば、幸せになれるのではないのですか。幸せになることが人生の目標だとすれば、目標が何なのかわからない今、どこに向かって歩けばいいのですか。私は人生における「正解」が欲しいです。「こうすれば必ず幸せになれる」と誰かに言ってほしいです。

さて、皆さんはこの大学生の訴えをどのように受けとめますか。  
この大学生の心の叫びから、私は皆さんに伝えたい。

誰にでも当てはまる、人生の「正解」はありません。

「こうすれば必ず幸せになれる」という「正解」もありません。

自分の人生における「正解」は、他人から教えてもらえるものではありません。

自分の人生における「正解」は、自分自身で努力して見つけるものです。

よく見聞し、心で感じて、やってみてからよく考えて、自分なりの「正解」をつくり出してください。

大野中学校は、「正解」を与えるのではなく、自分なりの「正解」をつくり出すために必要な力を育んでいくことを約束します。

84日あった2学期も今日で終わりです。御城祭などで皆さんが、殻を破って自分を表現したことに手応えを感じた一方で、「自分を中心とした半径5メートルの世界にしか興味が無いのでは？」という人が少なくないのが気がかりです。アメリカ・メジャーリーグで活躍したイチロー選手も、「外に出て、行って初めて分かることはたくさんある。価値観が変わるような出来事を体験してほしい。」と言っています。失敗とは間違えることではなく、やらないこと、行動しないことです。新しい年は、皆さんそれぞれが、自分の半径5メートルの世界を一步でも二歩でも、いや半歩でもいい、広げる努力をしてください。

むすびに、世界が心安らかに、新たな希望の年を迎えることを願って、式辞といたします。